

事業群評価調書(令和5年度実施)

基本戦略名	1-3 長崎県の未来を創る子ども、郷土を愛する人を育てる	事業群主管所属・課(室)長名	事業群②:教育庁 児童生徒支援課 事業群③:教育庁 高校教育課	長池 一徳 田川 耕太郎
施策名	2 郷土を愛し、地域を支える心豊かな人材の育成	事業群関係課(室)	義務教育課	
事業群名	② 豊かな道徳性を育む道徳教育の推進	令和4年度事業費(千円)	※下記「2. 令和4年度取組実績」の事業費(R4実績)の合計額	1,377
	③ 社会の様々な課題を主体的に判断できる力や政治に参画する態度を育てる教育の推進			4,398

1. 計画等概要

(長崎県総合計画チェンジ&チャレンジ2025 本文)		(取組項目)								
<p>②道徳性を養うため、「考え、議論する道徳」への転換を図るとともに、いのちを大切にする心や思いやりの心をもつ、規範意識の高い児童生徒の育成を学校・家庭・地域が一体となって推進します。</p> <p>③令和4年度から成年年齢が18歳に引き下げられることに伴い、自分が所属する集団である学校や地域社会、広く国家、国際社会を構成する主体としての意識と自覚を高め、社会の様々な課題を自分の問題として捉え、自ら考え、判断し、異なる年齢や異なる社会の人々と協働して行動する力を培う教育を推進します。</p>		<p>i)「長崎っ子の心を見つめる教育週間<sup>※1</sup>」などを通した、いのちを大切にする心や他者を思いやる心の育成と、あいさつや礼儀等の社会性や規範意識などの向上を図る取組の強化(事業群②)</p> <p>ii)小中高12年間を見通した子どもの発達の段階に即した道徳教育の推進(事業群②)</p> <p>iii)政治的教養教育を通し、主体的に社会の形成に参画しようとする態度を育成(事業群③)</p> <p>iv)地域が抱える課題を発見し、それを考え行動する探究的な学びを推進(事業群③)</p> <p>v)SDGsの理念に基づき、持続可能な社会づくりの担い手を育成(事業群③)</p> <p>※1 長崎っ子の心を見つめる教育週間:学校、保護者、地域住民が連携して、「心豊かな長崎っ子」を育成するため、県内全ての公立学校で教育活動を公開し、交流を図る取組</p>								
事業群	指標	基準年	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標(年度)	(進捗状況の分析)	
	②「長崎っ子の心を見つめる教育週間」における情報モラル教育を通して、他者と共によりよく生きるための道徳性を育てている学校の割合	目標値①	/	89%	90%	91%	92%	93%	93% (R7)	② 「長崎っ子の心を見つめる教育週間」において、96%の学校が情報モラル教育教材「SNSノート・ながさき」を活用し、他者と共によりよく生きるための道徳性を育む取組を実施した。昨年度を上回る学校が実施し、令和4年度の目標を達成した。これは、一人一台端末を活用した学習の定着やスマートフォン等のメディアと接する機会の増加等により、情報モラル教育の重要性が一層高まったことが要因であると考えられる。今後も、この取組状況を一過性のものに終わらせることなく、情報モラル教育を通して、相手の立場に立った言動を大切にする心情や情報社会で安全に生活するための危険回避の理解、生活のリズムなど健康への意識を育てていく。
		実績値②	88% (R元)	93%	96%	/	/	/	進捗状況	
		達成率 ②/①	/	104%	106%	/	/	/	順調	
	指標	基準年	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標(年度)	③ 令和4年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、例年のような活動が制限されていた。今年度はこれまで各県立高校で取り組まれている政治的教養教育や探究学習等の取組を行い、主体的に地域社会と関わり、国や社会、地域の問題を自分の問題として捉え、解決に向けて主体的に考え、行動しようとしている生徒を着実に育成できることが見込まれる。	
	③地域課題の解決や政治、選挙に関心があり、主体的に社会参画を目指す生徒の割合	目標値①	/	60.0%	60.5%	61.0%	61.5%	62.0%		62.0% (R7)
実績値②		58.9% (R元)	57.8%	55.2%	/	/	/	進捗状況		
達成率 ②/①		/	96%	91%	/	/	/	遅れ		

2. 令和4年度取組実績(令和5年度新規・補正事業は参考記載)

取組項目	中核事業	事業番号	事業事業名	事業費(単位:千円)			事業概要  令和4年度事業の実施状況 (令和5年度新規・補正事業は事業内容)	指標(上段:活動指標、下段:成果指標)			令和4年度事業の成果等			
				R3実績	うち 一般財源	人件費 (参考)		R3目標	R3実績	達成率				
				R4実績								R4目標	R4実績	
				R5計画	事業実施の根拠法令等			R5目標						
事業期間	法令による 事業実施の 義務付け	県の裁量 の余地が ない事業	他の評価 対象事業 (公共、研究等)	事業対象										
所管課(室)名														
取組項目 ii	○	1	道徳教育の抜本的改善・充実事業	1,625	0	1,558	文部科学省の委託事業である道徳教育の抜本的改善・充実事業は、4回の県内教職員向けの研修会及び研究協議会のうち1回は新型コロナウイルス感染症の影響により、集合研修からオンライン研修に変更した。後の3回については集合研修2回、オンライン研修を1回予定通り実施した。また、研究指定校による研究発表会、各市町要請による指導主事派遣事業を通じて、道徳教育の推進に努めた。	【活動指標】	200	165	82%	●事業の成果 ・オンラインと集合の両研修において、本協議会等を通じて道徳教育の推進に努めることができた。 ●事業群の目標達成への寄与 ・協議会の開催により、県内教職員へ、豊かな道徳性を育む道徳教育の在り方について周知することができた。集合研修において演習を取り入れることで、参加者に実践力を身に付けさせることができたことと考える。		
				1,377	0	1,531		道徳教育パワーアップ協議会の参加者数(人)	240	324	135%			
				3,776	0	3,086		道徳教育パワーアップ協議会により得られた事業効果(点)	240					
			H27-			—			【成果指標】	3.7	3.8		102%	
			義務教育課	—	—	—	公立小・中学校教職員	3.7	3.8	102%				
取組項目 iv v	○	2	長崎発 未来の創り手育成プラン	3,605	684	10,127	「地域魅力化型高等学校支援事業」では地域と学校の協働によるコンソーシアムを構築し、「ふるさと教育支援事業」では進学希望者が多い普通科高校4校で県内企業説明会を行った。また、令和3年度新規「ながさき未来デザインSDGs推進事業」の「長崎を元気にするアイデアコンテスト」では21校が活動、研究発表を行った。さらに、「高校生アントレプレナーシップゼミ」では24名が8グループで活動を行い、起業家や行政関係者の支援を受けながらビジネスアイデアを構築し、発表会を実施した。	【活動指標】	20	20	100%	●事業の成果 ・地元の行政機関や事業所などと連携し、地域活性化に向けた取り組みを行ったことで、多くの生徒達が、将来ふるさとの発展に貢献したいという意識が高まった。 ●事業群の目標達成への寄与 ・各機関との連携の実績ができたことで、今後の連携がスムーズに行われ、また、参加校の教諭の指導スキルの向上も見込まれる。このことで、今後の他の取組への広がりや深まりが期待でき、社会に参画する力や課題解決に主体的に関わる資質・能力の育成につながっている。		
				4,398	1,029	10,714		長崎を元気にするアイデアコンテストにおいて、活動した学校数(校)	20	21	105%			
				4,156	2,131	10,031		【成果指標】	85	100	117%			
			H30-R5			—			アイデアコンテスト参加校において、地域課題を解決し、将来、ふるさとの発展に貢献したいという意識が高まった生徒の割合(%)	90	94		104%	
						高校教育課		—	—	—	高校生		95	

3. 実績の検証及び解決すべき課題と解決に向けた方向性

i	「長崎っ子の心を見つめる教育週間」などを通した、いのちを大切に作る心や他者を思いやる心の育成と、あいさつや礼儀等の社会性や規範意識などの向上を図る取組の強化	<p>●実績の検証及び解決すべき課題</p> <p>新型コロナウイルスの感染状況を考慮し、拡大防止策を講じながら、各学校が家庭、地域と協力し地域の実情に応じて教育週間を実施した。情報モラル教育を通した情報モラルについての理解を重点目標に設定したことで、各学校で主体的な取組が実施された。一方で、SNSに関わる児童生徒のトラブルは増加傾向にあることから、今後も、情報モラル教育のより一層の推進が必要である。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性</p> <p>今後、継続して「長崎っ子の心を見つめる教育週間」等において、情報モラル教育教材「SNSノートながさき」を活用した情報モラルについての理解を重点目標に設定することで、引き続き、各学校における主体的な取組を推進し、インターネットやSNSの特性を理解し正しく安全に使用する能力や他者を思いやる心の育成等を図っていく。</p>
ii	小中高12年間を見通した子どもの発達の段階に即した道徳教育の推進	<p>●実績の検証及び解決すべき課題</p> <p>令和4年度は、集合研修やオンライン研修、指導主事派遣事業等を通じて道徳教育の推進を図った。また、「長崎県の道徳教育」リーフレットを活用した教員研修や資料提供を通して学校全体で取り組む道徳教育の更なる充実を図った。児童生徒の情報機器活用が高まっていることを踏まえ、令和5年度は「SNSノートながさき」を活用し、情報モラルに関する道徳科の指導の充実を図る必要がある。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性</p> <p>道徳教育パワーアップ研究協議会の開催内容を工夫し、道徳教育の更なる推進に努める。また、各市町における研修会において、「長崎県の道徳教育」リーフレットや「SNSノートながさき」を活用しながら、「考え、議論する道徳」の実現に向けた授業改善や学校全体で行う道徳教育の充実についての推進を図る。</p>

<p>iii 政治的教養教育を通し、主体的に社会の形成に参画しようとする態度を育成</p> <p>●実績の検証及び解決すべき課題 総合的な探究の時間等を活用し、自分の暮らす地域の課題を調べ、解決法を探る課題解決型の学習やふるさと教育等を通じて社会と接することで、当事者意識を高め、社会参画の意識を高める生徒が着実に育成されている。一方で、主権者教育が政治や選挙に関心を持っている生徒を育成することだけに捉えられていないかという点が課題である。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性 各県立高校で計画している選管講話や期日前投票だけでなく、金融経済教育や消費者教育、ふるさと教育に関する取組を実行するなど、各市町の選挙管理委員会や地域の民間企業・外部団体などと連携しながら、取組の深化・充実を図る。</p>
<p>iv 地域が抱える課題を発見し、それを考え行動する探究的な学びを推進</p> <p>●実績の検証及び解決すべき課題 高校生の地域課題に対する関心や探究スキルは向上しているが、地域課題発見・解決型の探究的な学びへの取組の充実の度合いは学校によって差が見られる。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性 小中学校のふるさと教育と高校のふるさと教育の連携を図り、系統性を持たせる取組を実施する。また、各校における優れた取組の成果について、ICT等を活用しながら他校への周知を図り、県全体の取組の深化・充実を図る。</p>
<p>v SDGsの理念に基づき、持続可能な社会づくりの担い手を育成</p> <p>●実績の検証及び解決すべき課題 「ふるさとの未来を担う高校生育成事業」、「ながさき未来デザインSDGs推進事業」により、高校生の地域課題に対する関心や探究スキルは向上している。また、令和3年度までにすべての県立高校でふるさと教育の体系図と実施計画を策定している。一方で小中学校におけるふるさと教育から一歩進んだ課題発見・解決能力の育成、生徒自らが創り上げる探究学習へのさらなる転換に課題がある。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性 「ながさき未来デザイン高校生SDGs推進事業」により、SDGsの視点から地域の課題を発見・解決し、主体的に行動することのできる地域リーダーの育成及び自ら枠を超えて行動を起こし新たな価値を生み出していく力をもち長崎の未来をデザインする人材を育成するとともに、若手教員を中心とした研修を実施し、教員自身のアントレプレナーシップの醸成と、指導力の向上を目指す。</p>

#### 4. 令和5年度見直し内容及び令和6年度実施に向けた方向性

取組項目	中核事業	事業番号	令和5年度事業の実施にあたり見直しした内容		令和6年度事業の実施に向けた方向性		
			事業期間 所管課(室)名	※令和5年度の新たな取組は「R5新規」等と、見直しがない場合は「―」と記載	事業構築の視点	見直しの方向	見直し区分
取組項目 ii	○	1	道徳教育の抜本的改善・充実事業 H27- 義務教育課	道徳教育の一層の充実を目的に開催している「道徳教育パワーアップ研究協議会」については、教職員が参加しやすく新たな視点で研修を深められるよう、開催場所の精選を行うとともに、協議会の形態や内容を工夫した。また、「長崎県の道徳教育」リーフレットや「SNSノートながさき」を活用し、「授業改善」「学校全体で行う道徳教育の充実」など、より実践的な協議を行うようにした。	②	道徳教育の充実を図るため、引き続き「道徳教育パワーアップ研究協議会」を実施する。その際、多くの教職員が参加しやすく、多面的な視点で協議に参加できるよう、開催場所や時期、協議会の形態等を工夫・改善していく。また、内容についても「道徳科の授業改善」をより一層推進し、「学校全体で行う道徳教育の充実」に向けた取組の一環として引き続き情報モラルを取り上げるなど更に充実させていく。	改善
取組項目 iv v	○	2	長崎発 未来の創り手育成プラン H30-R5 高校教育課	地域課題解決や地域魅力化のための活動を高校生自ら計画し実行することで、起業家精神を持つ人材を育成することを目的とする「高校生アントレプレナーシップゼミ」では、参加生徒による新規ビジネスプランの提案だけでなく、起業家や企業、行政機関等と連携しながら提案されたビジネスプランの実装に向けて取組を進めていく。	①②	より多くの生徒・教員が起業家教育に触れる形式へとブラッシュアップしながら、より多くの学びの機会を創出していく。また、引き続き産業界と連携しながら、アイデアの創出にとどまらず、実装に向けた取組の段階へと高めていく方法について検討する。	改善

注:「2. 令和4年度取組実績」に記載している事業のうち、令和4年度終了事業、100%国庫事業などで県の裁量の余地がない事業、公共事業評価対象事業、研究事業評価対象事業、指定管理者制度導入施設評価対象事業については、記載対象外としています。

#### 【事業構築の視点】

- ① 視点① 事業群としての成果目標に対し、特に効果が高い事業の見極め、事業の選択と集中ができていくか。
- ② 視点② 指標の進捗状況に応じて、その要因分析及びさらに高い効果を出すための工夫、目標に近づけるための工夫を検討・実施できているか。
- ③ 視点③ 人員・予算を最大限効果的に活用するための事務・事業の廃止・見直しができているか。
- ④ 視点④ 政策間連携により事業効果が高められないか。事業群としてリーダーの明確化、関係課の役割分担・協力関係の整理ができているか。
- ⑤ 視点⑤ 県と市町の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑥ 視点⑥ 県と民間の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑦ 視点⑦ 戦略的に関係者の行動を引き出せているか。
- ⑧ 視点⑧ 国制度等の最大限の活用が図られているか。国へ政策提案(制度改正要望)する必要はないか。
- ⑨ 視点⑨ 経済情勢等、環境の変化に対応した効果的・適切な見直しとなっているか。
- ⑩ その他の視点